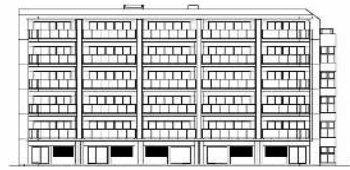


# CASBEE<sup>®</sup> さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版    使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)さいたま市浦和区常盤十丁目計	階数	地上6F
建設地	さいたま市浦和区常盤10丁目17	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、高度地区、防火指定	平均居住人員	138 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年2月 予定	評価の実施日	2024年4月11日
敷地面積	1,300 m <sup>2</sup>	作成者	川口土木建築工業㈱一級建築士事務所
建築面積	707 m <sup>2</sup>	確認日	2024年4月11日
延床面積	2,888 m <sup>2</sup>	確認者	川口土木建築工業㈱一級建築士事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.7** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (92 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 76% (46 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 76%

④上記+: 76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安を示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.3**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 3.6**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.4

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	住居部の断熱性能を日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能とし、室内環境と省エネルギーに配慮した。各住戸にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備し、部品・部材の耐用年数を考慮して材料設計をした。また、空間にゆとりをもたせる階高設定を行うなど、居住性の向上に努めた。	その他 0
<b>Q1 室内環境</b>	開口部遮音性能をT-2とし、住居部の断熱性能を日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能とする等室内環境の向上に努めている。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 可能な範囲で室外環境に配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b>	住居部の断熱性能を日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能とし、省エネルギーに配慮した。	<b>LR3 敷地外環境</b> ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出量を参考値より抑制し、「光害対策がドライク」チェックリストの項目の一部を満たし、広告物照明を行わない等、敷地外環境に配慮した。
<b>Q2 サービス性能</b>	各住戸にGbitクラスのブロードバンドが利用可能な環境を整備し、部品・部材の耐用年数に配慮。空間にゆとりをもたせる為に階高を2.9m以上~3.0m未満に設定している。	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	水資源保護の為に泡沫水栓に加えて、省水型機器を用いている。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEEさいたま2016年版**  
**(仮称)さいたま市浦和区常盤十丁目計画Ⅱ**

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版  
 ■評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.3</b>	
<b>Q1 室内環境</b>			0.40		-	<b>3.8</b>			
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>			
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50				
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.2</b>	0.50				
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2(住)	<b>3.0</b>	1.00	<b>5.0</b>	0.30				
2 界壁遮音性能		-	-	<b>3.0</b>	0.30				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	<b>1.0</b>	0.20				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	<b>3.0</b>	0.20				
1.3 吸音		-	-	-	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>1.6</b>	0.35	<b>5.0</b>	1.00	<b>4.5</b>			
2.1 室温制御		<b>2.2</b>	0.50	<b>5.0</b>	1.00				
1 室温		<b>3.0</b>	0.63	-	-				
2 外皮性能	日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える(住)	<b>1.0</b>	0.38	<b>5.0</b>	1.00				
3 ゾーン別制御性		-	-	-	-				
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	-	-				
2.3 空調方式		<b>1.0</b>	0.30	-	-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.5</b>	0.25	<b>3.7</b>	1.00	<b>3.6</b>			
3.1 昼光利用		<b>2.4</b>	0.30	<b>3.5</b>	0.50				
1 昼光率	1.5%≦[住居昼光率]<2.0%	<b>2.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.50				
2 方位別開口		-	-	<b>3.0</b>	0.30				
3 昼光利用設備		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.20				
3.2 グレア対策		<b>2.0</b>	0.30	<b>4.0</b>	0.50				
1 昼光制御	カーテンと庇の2種類を組み合わせる(住)	<b>2.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00				
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	-	-				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	-	-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.6</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.6</b>			
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.60	<b>4.0</b>	0.63				
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用	<b>4.0</b>	1.00	<b>4.0</b>	1.00				
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.38				
1 換気量		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33				
2 自然換気性能		-	-	<b>3.0</b>	0.33				
3 取り入れ外気への配慮		<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.33				
4.3 運用管理		-	-	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-				
2 喫煙の制御		-	-	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	-	<b>3.3</b>			
<b>1 機能性</b>		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.8</b>	1.00	<b>3.7</b>			
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	<b>5.0</b>	0.60				
1 広さ・収納性		-	-	-	-				
2 高度情報通信設備対応	各住戸にGbitクラスのブロードバンドを利用可能な環境を整備	-	-	<b>5.0</b>	1.00				
3 バリアフリー計画		<b>3.0</b>	1.00	-	-				
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	<b>2.0</b>	0.40				
1 広さ感・景観		-	-	<b>3.0</b>	0.50				
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-				
3 内装計画		<b>3.0</b>	1.00	<b>1.0</b>	0.50				
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>			
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		<b>3.0</b>	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.7</b>	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律において等級3相当	<b>5.0</b>	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		<b>2.0</b>	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	16年以上~25年未満	<b>4.0</b>	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用	<b>5.0</b>	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
2.4 信頼性		<b>2.4</b>	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
3 電気設備		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		<b>1.0</b>	0.20	-	-				
5 通信・情報設備		<b>2.0</b>	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>2.6</b>	0.30	<b>3.1</b>	1.00	<b>3.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>					<b>3.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	2.9m以上～3.0m未満	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		1.0	-	2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>					<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>2.6</b>	1.00			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		1.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.4</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える(住)	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.79	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		節水コマなどに加えて、省水型機器を用いている	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.8</b>	0.60	-	-	<b>2.8</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>		断熱材(躯体)	3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出量を参考値より抑制	<b>3.9</b>	0.33	-	-	<b>3.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.9</b>	0.33	-	-	<b>2.9</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>2.7</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>							
1	騒音		-	-	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.67	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.7</b>	0.33	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」チェックリストの項目の一部を満し、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	